

ヴァイオリニスト TAIRIK の戯言

〔第84回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada ✦

孤独な闘い

先日オーケストラ・アンサンブル金沢さんと共演させていただきました。

曲目は、まずはオーケストラだけでバーンスタインのトゥナイト、その後オリジナル曲やモリコーネ、ピアソラを演奏し、前半のトリにはゴーストライターで話題になった「天才」新垣隆さんの新曲を初演しました。前半は聴きやすい曲を中心にヴィオラを演奏し、後半はヴァイオリンに持ち替えて、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲。指揮は海老原光さん。

企画してくださった長野市芸術館の長谷川さんはいつも自分の幅を広げてくださる：いや、ポテンシャルをバールでこじ開けるような素晴らしい機会を与えてくださる方です。

「聴きやすい曲をヴィオラで、ヴァイオリンではコンチェルトを弾いてほしい」というリクエストがありました。ヴァイオリンとヴィオラは押さえる幅が違うので、説明するのはとても難しいのですが持ち替えをするのは実は難しい。

今回のコンサートマスターとして来てくださった東京交響楽団コンサートマスターの水谷晃さんは「柔道でいったら違う階級に同時にエントリーするよなもの」と言いました。

本来ならよく持ち替えているヴァイオリンとヴィオラですが、後半がコンチェルトとなると話は別。ただ、自分を成長させてくれる機会になるだろうと快諾。特にコンチェルトは学生時代以来、20年近く振りの演奏だったので、本番が近づいてくると緊張感も増していききました。

そんな中、適度な息抜きが必要と、演奏会の直前に唯一楽しみしていたのが格闘技のイベント「超RIZIN・3」。凄いで対戦カードが目白押しで、メインに組まれた朝倉未来選手VS平本蓮選手の力もあり、4万8千人を動員した特大イベントになりました。

スポーツと音楽は目的に向かつて身体と精神を整えながら準備していく様が似ているな、と思っていました。特に格闘技は年間に数回しか戦う機会がないので、一度の勝敗が人生を大きく左右します。そして音楽家にも格闘家にも共通するのは、舞台上上がると誰も助けてくれない、孤独な闘いになるということ。

音楽家は、ステージに向かう時は短距離走者でもあり、人生を通して向き合っていくので息の長い長距離走者でもあります。

人の輝く時期やタイミングは皆違います。

7日間だけ叫ぶ蟬のように、密度が濃く短い輝きを放つのか、細々と息の長い生き方になるのか、それともどちらでもないのか。

なんにせよ、音楽で誰かの背中を押すことができる、そんな存在でありたいです。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK 発見」毎週月曜 15:00 台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

